

# それは本当にecoなのか

朝日小次郎

## 1きっかけ

最近地球温暖化が進んでecoが大切だと言っているが、何がecoで何がecoじゃないのかよくわからないから。

## 2 ecoとはなぜ取り上げられるのか

- ・「エコ」とは生態学を意味する「エコロジー」の略語であり和製英語。
- ・環境問題に対する運動や活動に使われ、環境問題に対する言葉として主に地球温暖化の抑制に交際があるなどとして使われるようになっていった。

## 3 今やっていること

今家でやっていること

- ・おさがりリユース(再利用)
- ・ゴミの分別→リサイクル(再生)
- ・マイバックの利用→レジ袋削減  
→CO<sub>2</sub>削減  
→リデュース

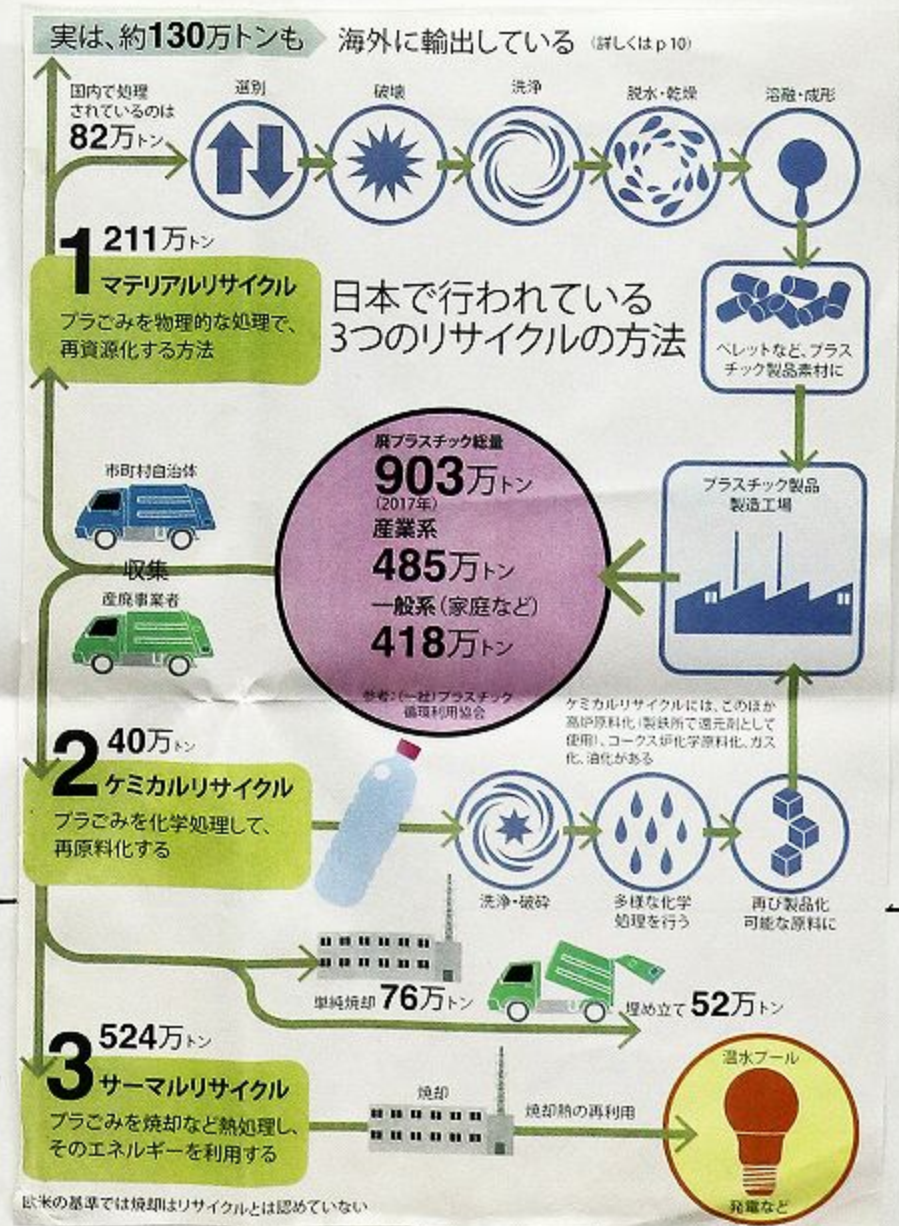
## 4 疑問

「環境にやさしい」「二酸化炭素排出量-30%」などは、本当にそうなのか目に見える形で知ることができないので「どうしてできたことは「本当にエコなのか」という疑問が生れた。

## 5 それは本当にecoなのか

- ・マイバックの利用→木素材などを作る際にでるCO<sub>2</sub>を比喩して「元をとるためには、紙袋なら約11回 布なら約840回 オーガニックコットンなら約2400回 使わないと元がとれずゴミ袋として使うなどして2木分の働きをすることもでき、レジ袋よりエコとは場合によっては言えない。しかし長期的に見るとエコと言える。

- ・リサイクル→右の図によると、2017年の廃プラスチック総量は903万トンでありその内の半分以上をリサイクルしている「サーマルリサイクル」とは「ゴミを火葬するなど熱処理し、そのエネルギーを利用すること」で、欧米の基準では火葬をリサイクルとは認めない。そのため世界的に見ると、リサイクルに出されたプラスチックゴミが、約6割もリサイクルされていないことになる。更に火葬するとCO<sub>2</sub>が発生するため、エコとはいえないが、他の「マテリアルリサイクル」や「ケミカルリサイクル」はCO<sub>2</sub>はあまり出ないのでリサイクルは「エコである」といえる。



## 6 結論

- ・今私達がやっていることは長期的に見たらエコであるため、続けていくことが未来の環境をよくすることにつながると思う。
- ・国にはなにか新しいリサイクル方法などなにか案を出して、未来をよくするためにがんばってもらいたい。